

第4回 議員定数等調査特別委員会 会議録

日 時 令和7年3月12日（水曜日） 午後3時55分～午後4時43分
場 所 白桦庁舎2階 議員応接室

出席委員の氏名

委員 長 梅田 徳男 委 員 平川 幸司
委 員 安東 鉄男 委 員 河野 巧 委 員 川辺 隆
委 員 戸匹 映二 ~~委 員 匹田 郁~~ 委 員 吉岡 勲

欠席委員の氏名

委 員 匹田 郁 ※代理として委員外議員 甲斐 尊議員が参加

オブザーバー

議 長 内藤 康弘 副議長 伊藤 淳

説明のため出席した者の職氏名

(な し)

出席した事務局職員の職氏名

局長 林 昌英 次長 二宮貴司 書記 原 伸行

傍聴者

(な し)

会議に付した事件

1. 議員アンケート結果について
 2. 今後の調査・研究の取り組みについて
 3. その他
-

午後3時55分 開議

協議事項

1. 議員アンケートの結果について

◎ 書記（原 伸行）

（配付資料に基づき説明）

（ 協議結果 ）

- 委員は、議員アンケート結果を確認。また、議員アンケート結果は、議員間情報共有用の資料のみとする。
- 委員会終了後、全議員に議員アンケート結果を議会用タブレット端末モアノートアプリで共有する。

2. 今後の調査・研究の取り組みについて

○ 委員長（梅田徳男）

議員アンケートの結果を踏まえて、調査対象事項を議員定数、選挙公営制度、政務活動費の三つに絞って、取り組んでいきたいと考えている。特に、議員定数については、来年4月に選挙があるなど期限があるので、重きを置きながらの検討となる。

今後の取り組み及び調査について、委員の意見を聞きたい。

○ 委員（意見）

- ・主体性は、議会が持つべきだと考える。情報収集した市民の意見は参考となるとしても、市民の代表である議員が決定すべき。
- ・議員アンケートの結果により、議員の意思確認ができていますので、他市等の動向の調査は行ったとしても、それぞれ議会の状況が異なることから、調査結果によって方向性が大きく変化することはないと考えている。
- ・議員アンケートの結果、選挙公営制度や政務活動費を多くが望んでいることが把握できた。その方向性で進めるべきだと思う。市民の意見などを聞くことで、議員が望んだ方向と異なるものにならないように注意すべきと思う。
- ・今回のアンケート結果である議員の意見を加えて、市民はどう考えるか。他市等の動向などを踏まえて、総合的・総体的に考えて結論をだすべきと思う。
- ・市民の意見を聞けば、その意見を無視した決断はできないので、安易に市民を対象としたアンケートを行うなどとせず、慎重に実施方法を検討すべき。
- ・市民の意見を聞く方法を委員会で検討してきたが、市民を対象としたアンケートを実施すると、時間と労力、費用がかかる。また、議員の役割や必要性などが不明なまま、ただ定数減という回答が想定される。市民の意見を聞く方法として、区長会との意見交換などの方法もあると考えている。あるいは、パブリックコメントなどもある。ただし、市民の意見を聞かずに、結論は出せないと考えている。
- ・他市での決定の経緯を調査し、あわせて市民の意見をどのように取り込んだかを情報収集をして、議員が納得感をもった結論を出すため、もう少し情報収集を検討するとよい。

- ・議員定数を検討した結果の反映の時期は、次回改選時（来年）、5年後の改正時のどちらとなるのか。特別委員会の設置時に結果反映の具体的な時期について、これまで、特に言及はなかった。

⇒（他委員 意見）

- ・検討の結果は別にして、次回改選時のことを含めて議論をしないと納得感が得られない。
- ・本委員会の議論は、次期改選時のものだと思う。その後の定数等については、その時点で別途検討すべき。

（梅田委員長 回答）

- ・本委員会を設置したタイミング、来年に市議会議員選挙があるという事実から、次期改選時の定数について、検討するべきで避けて通ることはできない。
- ・次期改選時以降の定数については、本委員会で定数を定める、または、定数は定めず継続して検討など、様々な選択肢の回答ともなり得ると考えているが、検討は行うものと考えている。

（ 協議結果 ）

- 議員定数のあり方については、次期改選時（令和8年4月選挙）を含めた検討を行う。
- 議員定数等の見直しについては、市民の意見を踏まえて検討するため、次回以降に具体的な方法を協議する。

午後4時43分 閉会

白杵市議会委員会条例第30条第1項の規定を準用し、ここに記録を作成する。

令和7年3月12日

議員定数等調査特別委員会

委員長 梅田 徳男